



ARIUS

YDP-S31

取扱説明書

組み立て説明については巻末をご参照ください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。




ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。

警告

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。
誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-5D または
ヤマハ推奨の同等品) を使用する。
(異なった電源アダプターを使用すると) 故障、発熱、
火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこり
をきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。



禁止

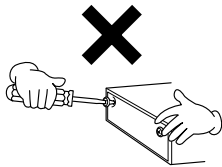
電源アダプターコードをストーブなどの熱器具に近
づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。ま
た、電源コードに重いものをのせない。
電源アダプターコードが破損し、感電や火災の原因に
なります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解した
り改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。異
常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げ
の楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス
拠点にご依頼ください。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置か
ない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いと
ころで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故
障の原因になります。入った場合は、すぐに電源ス
イッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上
で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響
製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上ろうそくなど火気のあるものを置か
ない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になりま
す。

異常に気づいたら



必ず実行

電源アダプターコード / プラグがいたんだ場合、ま
たは、使用中に音が出なくなったり異常においや
煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、
電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、
お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製
品サービス拠点に点検をご依頼ください。

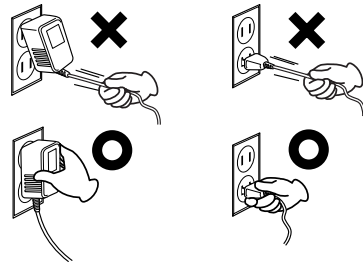
注意

電源 / 電源アダプター



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源アダプターコードを
持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災の原因
になることがあります。



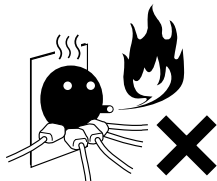


長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

必ず実行



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



設置



直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストロブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源アダプターコードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



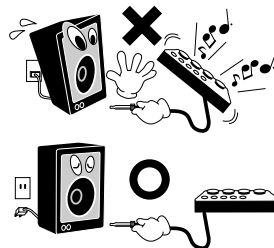
指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。
本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。



必ず実行

水滴がついたらすぐに拭きとる。
極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

使用時の注意



禁止

キーカバーで指などははさまないように注意する。また、キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



禁止

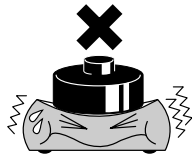
本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをした原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。



データの保存

作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

コンピューターから読み込んだソングデータや自分で録音したソングデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューター側に保存してください。(P34)

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態（電源スイッチが「STANDBY」の状態）でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ごあいさつ

このたびはヤマハ電子ピアノをお買いもめいただき、まことにありがとうございます。
この楽器のさまざまな機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。
なお、読み終わったあとも、不明な点が生じた場合に備えて、
保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

取扱説明書について

この取扱説明書は、以下のように構成されています。

取扱説明書（本書）

- 準備** 最初にお読みください。
本編 楽器の使い方を詳しく説明しています。
付録 組み立て説明、索引、仕様を掲載しております。

クイックオペレーションガイド（別紙）

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の操作を詳しく説明しています。

データリスト

「MIDI データフォーマット」や「MIDI インプリメンテーションチャート」など MIDI に関する資料が、**ヤマハマニュアルライブラリー**からダウンロードできます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名（「YDP-S31」など）を入力して「検索」ボタンを押します。

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

表記上の決まり

【 】の意味

【 】： パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、ジャック（端子）といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのつまみは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

⇨の意味

○○○⇨※※※ ○○○の操作を行なった結果、※※※の状態になることを示しています。
(操作の結果を示します。)

※ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、MIDI データ、WAVE データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

- ヤマハ（株）および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

目次

準備

取扱説明書について	6
目次	7
目的別目次	8
付属品（お確かめください）	9
この楽器でこんなことができます	10
ご使用前の準備	11
電源を入れる	11
キーカバーと譜面立てについて	12
音量（ボリューム）調節	14
ヘッドフォンを使う場合	14

本編

各部の名前	16
デモ曲を聞く	17
ピアノ 50 曲（プリセットソング）を聞く	18
コンピューターから読み込んだソングを聞く	19
音色を楽しむ	20
音色を選ぶ	20
ペダルを使う	21
音に残響を付ける（リバーブ）	22
2つの音色を重ねる（デュアル）	23
キー（調）を変える（トランスポーズ）	24
音の高さの微調整	24
メトロノームを使う	25
タッチ感度を設定する	26
演奏を録音（記録）する	27
録音した演奏を再生する	28
ソングを消去する	28
<small>ミディ</small> MIDI 機器の接続	29
MIDI って何？	29
MIDI できること	29
コンピューターと接続する	30
<small>ミディ</small> MIDI に関する設定をする	31
MIDI 送信 / 受信チャンネルの設定	31
ローカルコントロールオン / オフの設定	31
プログラムチェンジ送受信オン / オフの設定	32
コントロールチェンジ送受信オン / オフの設定	32
コンピューターと楽器間でソングデータを 送受信する	33
コンピューターからソングデータを楽器に 読み込む	33
楽器からソングデータをコンピューターに 送信する	34
バックアップデータと初期化（イニシャライズ） の方法	34
困ったときは	35

付録

組み立て方	36
別売品のご紹介	39
仕様	39
索引	40
保証とアフターサービス	43

目的別目次

●聞く

- ・音色ごとのデモ曲が聞きたい.....「デモ曲を聞く」(P17)
- ・「ピアノで弾く名曲 50 選」の曲が聞きたい.....「ピアノ 50 曲 (プリセットソング) を聞く」(P18)
- ・録音した演奏を聞きたい.....「録音した演奏を再生する」(P28)
- ・コンピューターから読み込んだソングを聞きたい.....「コンピューターから読み込んだソングを聞く」(P19)

●弾く

- ・ペダルを使いたい.....「ペダルを使う」(P21)
- ・演奏するキーを変えたい.....「キー (調) を変える (トランスポーズ)」(P24)
- ・他の楽器や CD の音楽に合わせて演奏したい.....「音の高さの微調整」(P24)
- ・音の強弱の付き方を変えたい.....「タッチ感度を設定する」(P26)

●音色を変える

- ・音色を変えたい.....「音色を選ぶ」(P20)
- ・コンサートホールで弾いているような音にしたい.....「音に残響を付ける (リバーブ)」(P22)
- ・2つの音色を重ねたい.....「2つの音色を重ねる (デュアル)」(P23)

●練習する

- ・正確なテンポで練習したい.....「メトロノームを使う」(P25)

●録音する

- ・演奏を録音したい.....「演奏を録音 (記録) する」(P27)
- ・ソングを消去したい.....「ソングを消去する」(P28)

●他の機器と接続して使う

- ・MIDI^{ミディ}って何?.....「MIDI^{ミディ} 機器の接続」(P29)
- ・コンピューターとつなぎたい.....「コンピューターと接続する」(P30)
- ・コンピューターにあるソングデータを楽器に読み込みたい.....「コンピューターからソングデータを楽器に読み込む」(P33)
- ・自分の演奏したデータをコンピューターに送信したい.....「楽器からソングデータをコンピューターに送信する」(P34)

●組み立てる

- ・この楽器の組み立て、解体をしたい.....「組み立て方」(P36)

付属品 (お確かめください)

- ・ 保証書
- ・ 取扱説明書 (本書)
- ・ クイックオペレーションガイド
- ・ ピアノで弾く名曲 50 選 (楽譜集)
- ・ 電源アダプター PA-5D またはヤマハ推奨の同等品

■ 調律について

この楽器は調律の必要がありません。

■ お引越しのときは

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。

この楽器でこんなことができます

この楽器には「グレードハンマースタANDARD (GHS) 鍵盤 黒鍵マット仕上げ」を搭載しています。

それぞれ低音部は重く、高音部は軽い、グランドピアノに近い自然な弾き心地で演奏することが出来ます。

また黒鍵を艶消しの仕上げとすることで、高級感のある外観を実現しました。

音源にはヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWM ステレオサンプリング」を使用することにより、豊かな音色で演奏することができます。

ピアノ音色のうち、グランドピアノ 1/2 の音色は、フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。エレクトリックピアノの音色は、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしています (ダイナミックサンプリング)。

デモソング [DEMO/SONG]

音色ごとのデモ曲やピアノ 50 曲 (プリセットソング) を聞くことができます。(P17、18)

ピアノボイス [PIANO/VOICE]

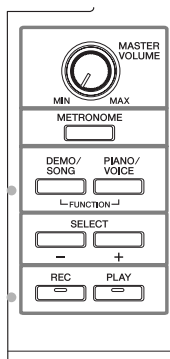
グランドピアノをはじめとした6種類の音色から一つの音色を選択できます。(P20)
また、2 つの音色を重ねて使ったり (P23)、リバーブの種類を選んだりする (P22) こともできます。

レコード [REC]

自分の演奏を録音できます。(P27)

プレイ [PLAY]

録音した演奏を再生できます。(P28)



マスターボリューム [MASTER VOLUME]

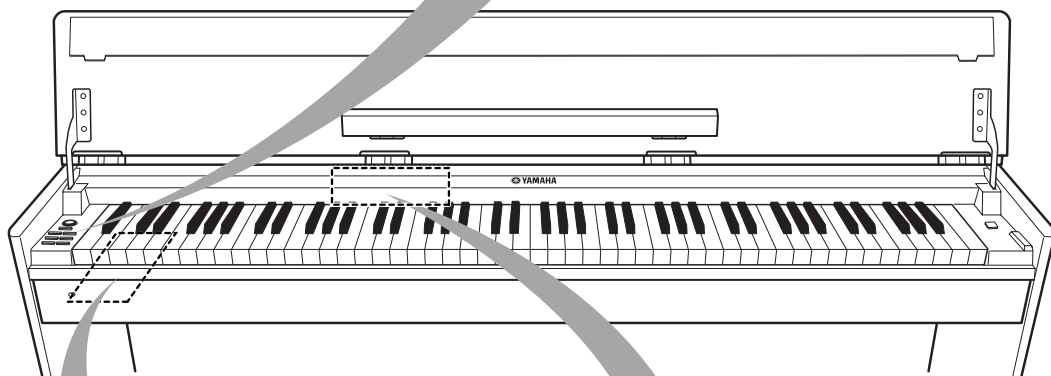
音量を調節できます。(P14)

メトロノーム [METRONOME]

メトロノームの機能を利用できます。(P25)

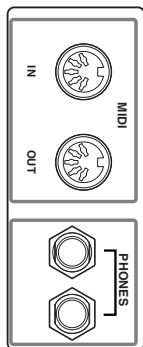
セレクト [SELECT -/+]

音色ごとのデモ曲やピアノ 50 曲から聞きたい一曲を選択できます。(P17、18) 曲の停止中は、音色を選択できます。(P20)



ディジーサイン 12ボルト [DC IN 12V]

電源アダプターを接続します。(P11)



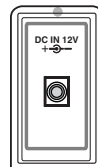
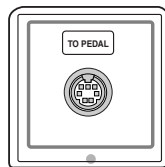
本体手前側

ミディ イン アウト MIDI [IN/OUT]

MIDI 機器を接続して、MIDI を活用することができます。(P29 ~ 30)
→ MIDI 機器の接続 (P29)

フォーンズ [PHONES]

ヘッドフォンで練習ができます。(P14)



トップペダル [TO PEDAL]

ペダルコードを接続します。(P37)

[DC IN 12V] と [TO PEDAL] は本体うしろ側から見た図です。

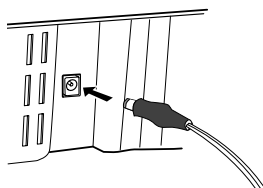
ご使用前の準備

電源を入れる

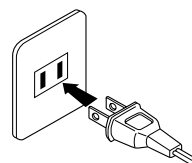
1. 付属の電源アダプターを接続する

- 1-1 本体パネル右の【STANDBY/ON】がスタンバイ側になっていることを確認します。
- 1-2 電源アダプターの DC プラグをリアパネルの【DC IN 12V】に差し込みます。
- 1-3 電源アダプターの AC プラグを家庭用 (AC 100V) コンセントに差し込みます。

1-2



1-3



警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの (PA-5D またはヤマハ推奨のアダプター) をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱、火災などの原因になります。
- 電源は必ず AC100V を使用してください。

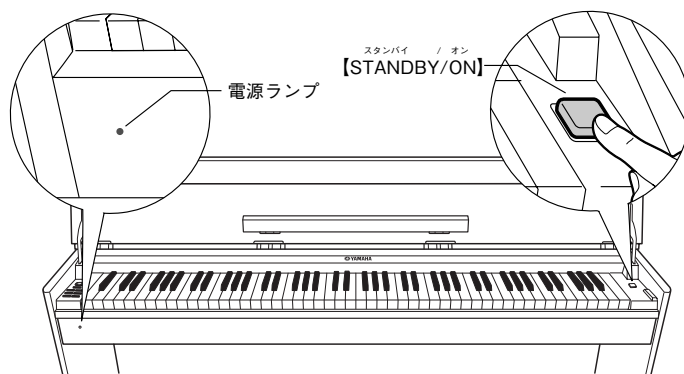
注意

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

2. 電源を入れる

本体パネル右の【STANDBY/ON】を押すと、電源が入ります。

⇒ この楽器前面左の電源ランプが点灯します。



電源を切るときは、もう一度【STANDBY/ON】を押します。

⇒ この楽器前面左の電源ランプが消灯します。

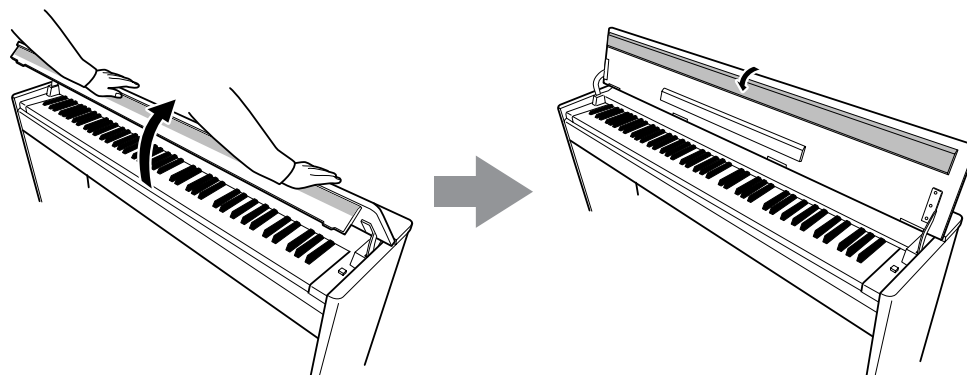
注意

電源スイッチがオフになっていても微電流が流れています。
楽器を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

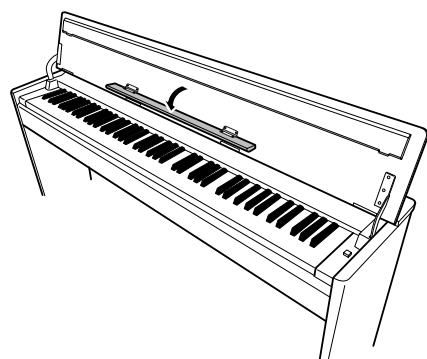
■ キーカバーと譜面立てについて

キーカバーを開ける

1. 手前のくぼみに手をかけ両手でカバーをゆっくりと持ち上げます。
2. キーカバーの上側の部分を手前に倒します。

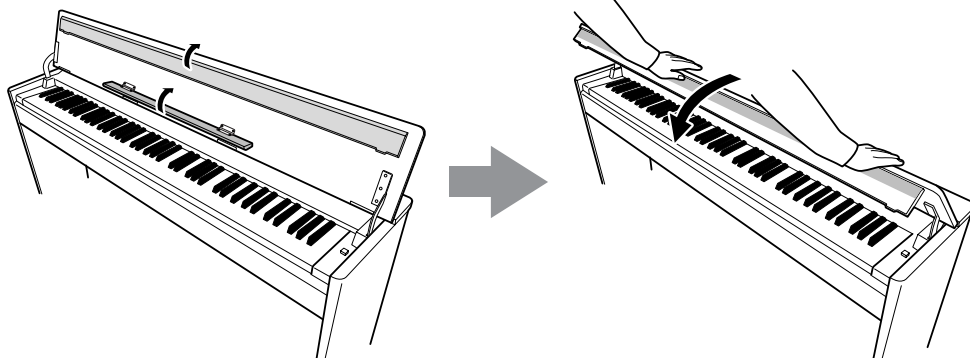


3. 譜面立てを手前に倒します。



キーカバーを閉じる

1. 譜面立てをキーカバー側に戻します。
2. キーカバー上側の部分を下から持ち上げ手前に立てます。
3. キーカバーを持って手前にゆっくりと倒します。

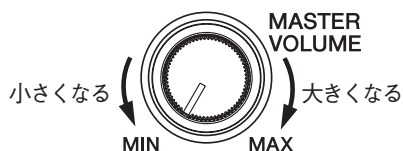


注意

譜面立ては必ずキーカバー側に戻してからふたを閉めてください。
キーカバー上側部分も同様に手前に立ててからキーカバーを閉じてください。

■音量（ボリューム）調節

本体パネル左の マスター ボリューム **[MASTER VOLUME]** で調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



⚠ 注意

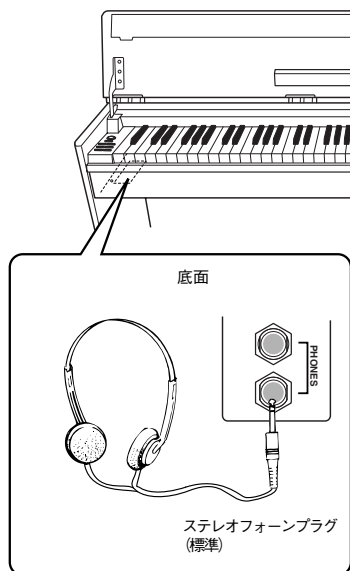
大きな音量で長時間使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

■ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを フォーンズ **[PHONES]** 端子に接続して使います。
フォーンズ **[PHONES]** 端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

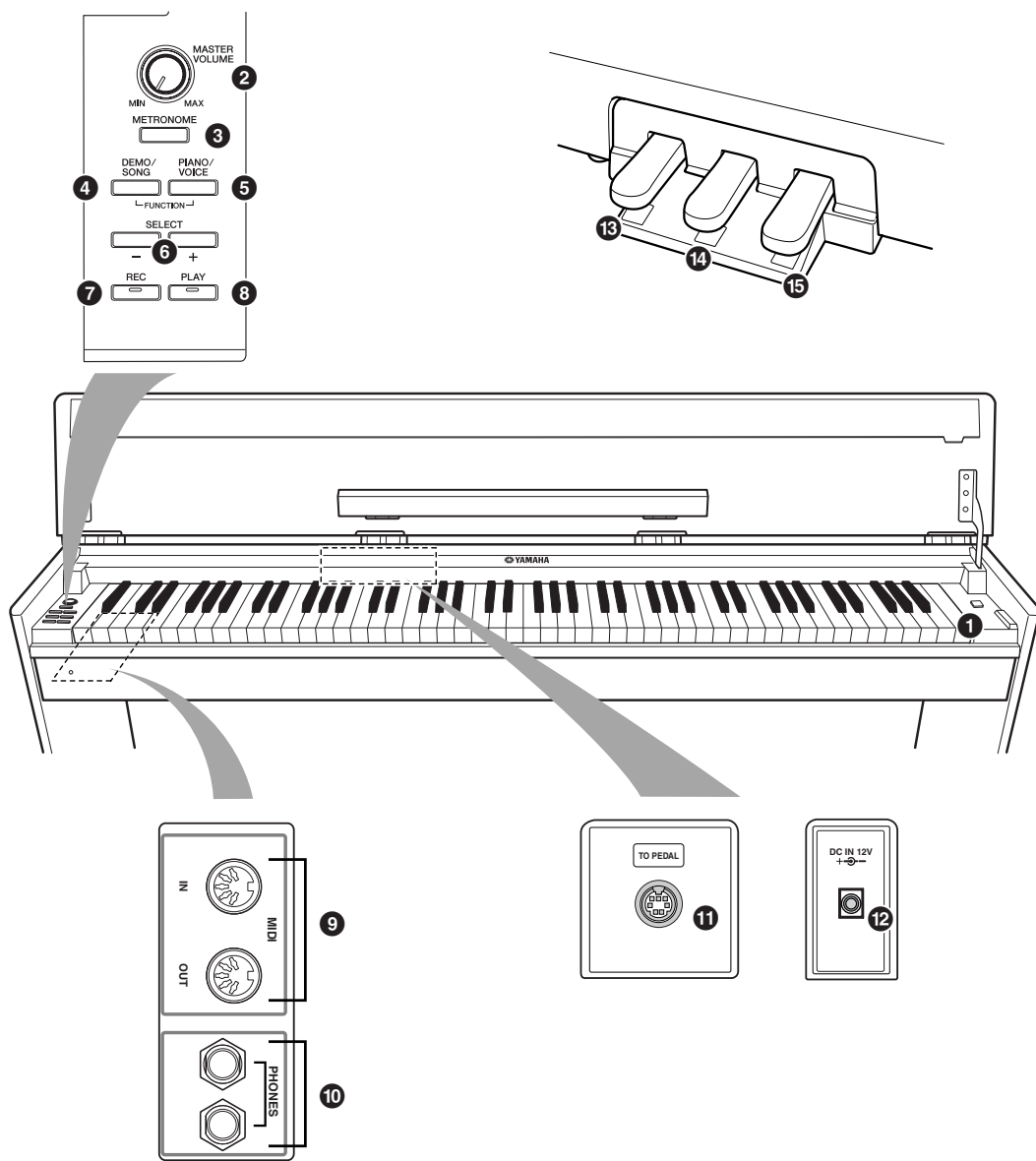


本編

●この楽器の使い方を詳しく説明しています。

各部の名前	16	困ったときは	35
デモ曲を聞く	17		
ピアノ 50 曲 (プリセットソング) を聞く	18		
コンピューターから読み込んだソングを聞く ...	19		
音色を楽しむ	20		
音色を選ぶ	20		
ペダルを使う	21		
音に残響を付ける (リバーブ)	22		
2つの音色を重ねる (デュアル)	23		
キー (調) を変える (トランスポーズ)	24		
音の高さの微調整	24		
メトロノームを使う	25		
タッチ感度を設定する	26		
演奏を録音 (記録) する	27		
録音した演奏を再生する	28		
ソングを消去する	28		
^{ミディ} MIDI 機器の接続	29		
^{ミディ} MIDI って何?	29		
^{ミディ} MIDI でできること	29		
コンピューターと接続する	30		
^{ミディ} MIDI に関する設定をする	31		
^{ミディ} MIDI 送信 / 受信チャンネルの設定	31		
ローカルコントロールオン / オフの設定	31		
プログラムチェンジ送受信オン / オフの設定	32		
コントロールチェンジ送受信オン / オフの設定	32		
コンピューターと楽器間でソングデータ を送受信する	33		
コンピューターからソングデータを楽器に読み込む ...	33		
楽器からソングデータをコンピューターに送信する ...	34		
バックアップデータと初期化 (イニシャライズ) の方法	34		

各部の名前



- ① [STANDBY/ON] P11
スタンバイ/オン
- ② [MASTER VOLUME] P14
マスター ボリューム
- ③ [METRONOME] P25
メトロノーム
- ④ [DEMO/SONG] P17
デモ ソング
- ⑤ [PIANO/VOICE] P20 ~ 23
ピアノ ボイス
- ⑥ [SELECT - / +] P17、18、20
セレクト
- ⑦ [REC] P27
レコード
- ⑧ [PLAY] P27、28
プレイ

- ⑨ MIDI [IN] [OUT] P29
ミディ イン アウト
- ⑩ [PHONES] P14
フォーンズ
- ⑪ [TO PEDAL] P37
トゥ ペダル
- ⑫ [DC IN 12V] P11
ディーシーイン12ボルト
- ⑬ 左のペダル (ソフトペダル) P21
- ⑭ まん中のペダル (ソステヌートペダル) .. P21
- ⑮ 右のペダル (ダンパーペダル) P21

デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

操作

1. 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合) **[STANDBY/ON]** を押します。

☞ 電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、**[MASTER VOLUME]** を中程まで上げておいてください。

2. デモ曲をスタートする

[DEMO/SONG] を押します。

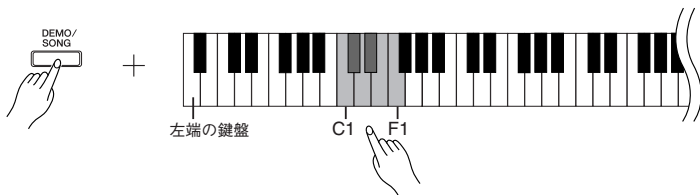
☞ 今選ばれている音色の音色紹介デモ曲がスタートします。

3. 選曲と再生スタート

デモ曲の再生中に **[SELECT - / +]** を押すと、次のデモ曲に移ります。

6曲ある音色紹介デモ曲から1曲を直接選曲するには **[DEMO/SONG]** を押したまま C1 ~ F1 鍵盤のどれかを押します。

☞ デモ曲の再生がスタートします。デモ曲は、ストップするまで「別の音色のデモ曲」→「ピアノ 50曲 (プリセットソング)」→「コンピューターから読み込んだソング (データがある場合)」→「最初の音色のデモ曲」の順で連続して再生されます。



デモ曲

すべての音色 (6音色) に、その音色にふさわしいデモ曲が割り当てられています。「音色を選ぶ」(P20) を参照ください。

下記デモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。

下記以外の曲は、オリジナル曲です。(©2005 Yamaha Corporation)

鍵盤	音色名	曲名	作曲者
C1	グランドピアノ1	森の情景ピアノのための9つの小品より 「森の入り口」	シューマン
D#1	ハーブシコード	ガボット	バッハ

音量の調節

デモ曲を聞きながら **[MASTER VOLUME]** で音量を調節します。

4. 再生ストップ

[DEMO/SONG] を押します。

音色の特徴をつかむには・・・

「音色を選ぶ」(P20) をご覧ください。

本

編

デモ曲はMIDI送信されません。

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、音色のデモ曲の他にピアノ 50 曲の演奏データが入っています。付属の『ピアノで弾く名曲 50 選』の楽譜集には、ピアノ 50 曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

操作

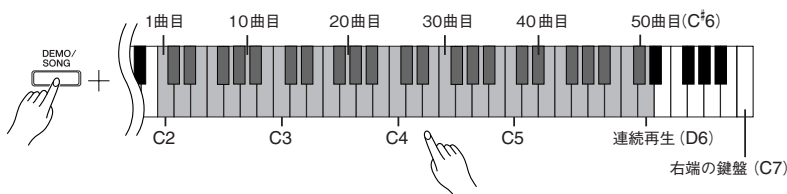
1. ピアノ曲選択と再生スタート

C2 ~ C#6 鍵盤 (以下参照) には 50 曲の曲番号が割り当てられています。

[^{デモ}DEMO/^{ソング}SONG] を押したまま C2 ~ C#6 鍵盤のどれかを押して、再生する曲を選びます。

☞ ピアノ曲の再生がスタートします。

ピアノ 50 曲を連続再生する場合は、[^{デモ}DEMO/^{ソング}SONG] を押したまま D6 鍵盤を押します。



ピアノ曲の再生中に [^{セレクト}SELECT - / +] を押すと、次のピアノ曲に移ります。

音量の調節

ピアノ曲を聞きながら [^{マスター ボリューム}MASTER VOLUME] で音量を調節します。

2. 再生ストップ

再生をストップする場合は、[^{デモ}DEMO/^{ソング}SONG] を押します。

・続いて他の曲を再生する場合は、操作 1 に戻ります。

SONG ソングとは・・・

この楽器では、演奏データを総称して「ソング (SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

テンポのリセット (再設定)

新しい曲を選ぶと (または、連続再生で新しい曲がスタートすると) テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

ピアノ曲のテンポの調節については、P25 をご参照ください。

リバーブは新しい曲を選ぶと (または、連続再生で新しい曲がスタートすると) その曲に合ったリバーブの種類になります。

ピアノ 50 曲は、MIDI 送信されません。

コンピューターから読み込んだ ソングを聞く

コンピューターからソングデータを読み込んだあと、そのソングを鳴らすことができます。(コンピューターからソングを読み込む方法は 33 ページをご参照ください)

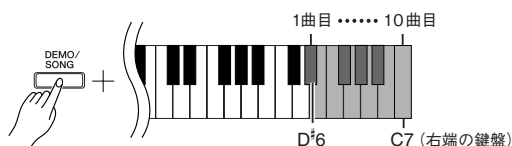
操作

1. 選曲と再生スタート

D#6 ~ C7 鍵盤 (以下参照) には 1 から 10 の曲番号が割り当てられています。

[**DEMO/SONG**] を押したまま D#6 ~ C7 鍵盤のどれかを押して、再生する曲を選びます。

⇒ 選んだ曲がスタートします。



再生中に [**SELECT - / +**] を押すと再生曲を切り替えることができます。

音量の調節

演奏を聞きながら [**MASTER VOLUME**] で音量を調節します。

2. 再生ストップ

ソングの最後まで演奏すると、次の曲に移ります。演奏の途中で止めたい場合は、[**DEMO/SONG**] を押します。

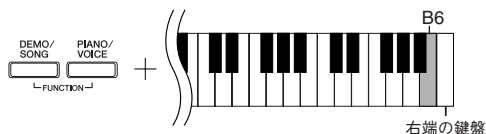
ソング再生チャンネルの選択

コンピューターから読み込んだソングデータが、この楽器にない音色を使用している場合、元の曲の音色が正確に再現されない場合があります。その場合は、以下のようにソング再生チャンネルをオールから 1+2 に切り替えると、より自然に聞こえることがあります。

ソング再生オールチャンネルの選択

[**DEMO/SONG**] と [**PIANO/VOICE**] を同時に押したまま B6 鍵盤を押します。

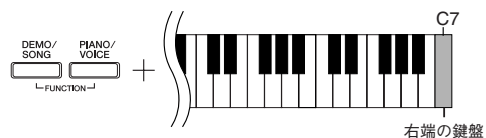
⇒ 1 ~ 16 すべてのチャンネルが鳴ります。



ソング再生 1+2 チャンネルの選択

[**DEMO/SONG**] と [**PIANO/VOICE**] を同時に押したまま C7 鍵盤を押します。

⇒ 1+2 チャンネルだけが鳴ります。



コンピューターから読み込めるソング数は 10 ソングです。また全体の容量は 352KB (キロバイト) です。

下の表にコンピューターから読み込んだソングをメモしておく便利です。

鍵盤	ソング名
D#6	
E6	
F6	
F#6	
G6	
G#6	
A6	
A#6	
B6	
C7	

音色を楽しむ

音色を選ぶ

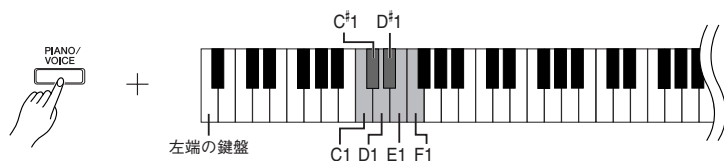
操作

[PIANO/VOICE] を押し、離すとグランドピアノ 1 が選ばれます。

[PIANO/VOICE] を押し、そのまま C1 ~ F1 鍵盤のどれかを押して、音色を選びます。

[PIANO/VOICE] を押し、その後 **[SELECT - / +]** を押し、音色を選ぶことができます。**[SELECT - / +]** を押すたびに音色が切り替わります。

[MASTER VOLUME] で音量を調節しながら演奏してください。



鍵盤	音色名	音色紹介
C1	グランドピアノ 1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
C#1	グランドピアノ 2	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D1	エレクトリックピアノ	FM シンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D#1	ハープシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
E1	チャーチオルガン	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
F1	ストリングス	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。

音色の特徴をつかむには…

音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。 (P17)

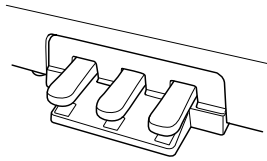
[VOICE] の意味…

「VOICE」には、「声」や「音」などの意味があります。

音色を選ぶと、その音色に合ったリバーブ (P22) が自動的に選ばれます。

ペダルを使う

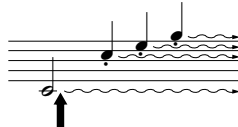
ペダルには、右のペダル（ダンパーペダル）、まん中のペダル（ソステヌートペダル）、左のペダル（ソフトペダル）があります。



右のペダル（ダンパーペダル）

このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。

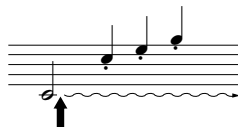
ダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル（ソステヌートペダル）

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル（ソフトペダル）

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。（ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。）

ダンパーペダルが効かない…

ペダルコードのプラグが【TO PEDAL】端子に差し込まれていないと思われます。確実に差し込んでください。（P37）

ハーフペダル機能とは…

ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、ペダルを踏み込んだ状態から少し戻し音の響きを抑える（音の濁りを減らす）機能です。

オルガンやストリングスの音色では…

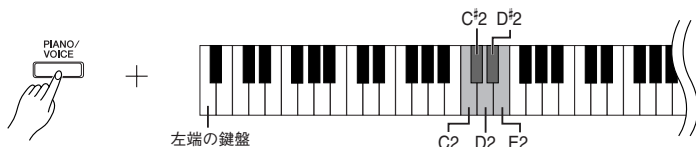
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

■ 音に残響を付ける(リバーブ)

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果を加えることができます。また、その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

操作

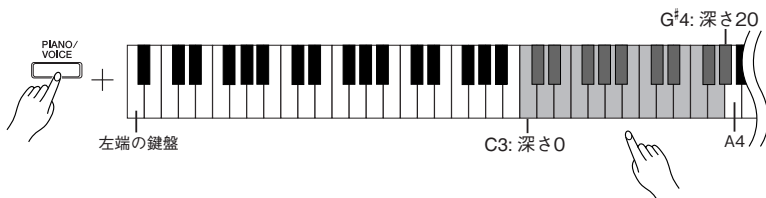
ピアノ **ボイス**
【PIANO/VOICE】 を押したまま C2 ~ E2 鍵盤のどれかを押して、リバーブの種類を選びます。



鍵盤	リバーブの種類	説明
C2	ルーム	部屋の中にあるような響きになります。
C#2	ホール 1	小さいコンサートホールにあるような響きになります。
D2	ホール 2	大きいコンサートホールにあるような響きになります。
D#2	ステージ	ステージにあるような響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

深さ(かかり具合)の設定

ピアノ **ボイス**
【PIANO/VOICE】 を押したまま C3 ~ G#4 鍵盤のどれかを押して、リバーブの深さを設定します。設定範囲は 0 ~ 20 です。



右の鍵盤ほどリバーブの深さを深く設定できます。

ピアノ **ボイス**
【PIANO/VOICE】 を押したまま A4 鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さになります。

基本設定...

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)や深さが設定されています。

深さ 0 : 効果なし
 深さ 20 : 深さ最大

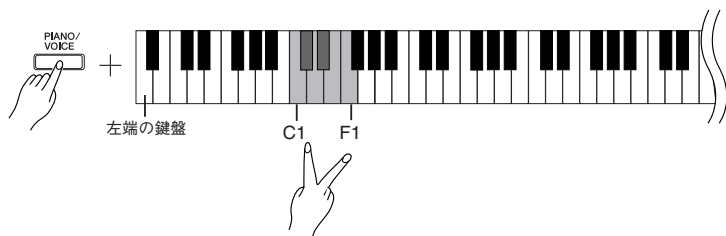
2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて鳴らすことができます。重ねて鳴らすことにより厚みのある音を作り出したりすることができます。

操作

1. デュアルモードに入る

[PIANO/VOICE] を押したまま、C1 ~ F1 鍵盤のうち2つの鍵盤を同時に(または、ひとつの鍵盤を押したままもう一方の鍵盤を)押して、重ねて鳴らす2つの音色を選びます。
音色の割り当てについては、「音色を選ぶ」(P20)をご参照ください。



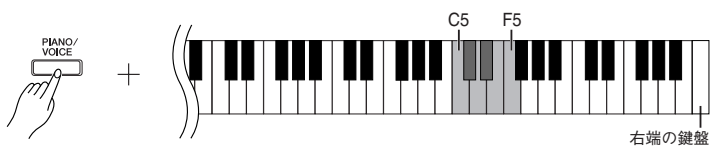
上記の設定で選んだ2つの音色のうち、左側の鍵盤に割り当てられた音色を第1音色、同様に右側の鍵盤に割り当てられた音色が第2音色になります。

第1音色、第2音色はそれぞれ、以下のようにさまざまな設定ができます。

オクターブシフトの設定

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

[PIANO/VOICE] を押したまま C5 ~ F5 鍵盤のどれかを押します。

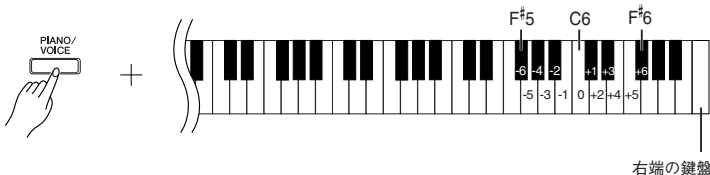


C5: -1 (第1音色)、 C#5: 0 (第1音色)、 D5: +1 (第1音色)
D#5: -1 (第2音色)、 E5: 0 (第2音色)、 F5: +1 (第2音色)

音色の音量バランスの設定

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを設定します。

[PIANO/VOICE] を押したまま F#5 ~ F#6 鍵盤のどれかを押します。
設定値が +6 に近づくほど第1音色の音量が大きくなります。設定値が 0 で同音量です。



2. デュアルモードを抜ける

[PIANO/VOICE] を押したまま C1 ~ F1 鍵盤のどれかを押します。

デュアル=2つ

デュアルで同じ音色を設定することはできません。

デュアルのときのリバーブ...

第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(第1音色のリバーブがオフの時は、第2音色に設定されているリバーブの種類になります。) 深さの調節 (P22) は、第1音色にだけ影響します。

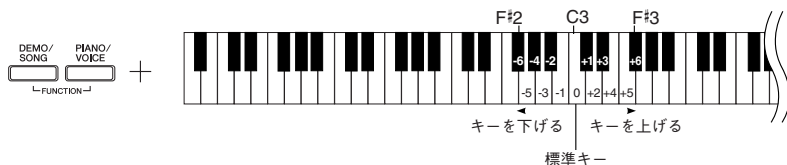
キー(調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせることができます。半音単位でトランスポーズを設定できます。

たとえばトランスポーズを「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

操作

[DEMO/SONG] と **[PIANO/VOICE]** を同時に押したまま F#2 ~ F#3 鍵盤のどれかを押してトランスポーズを設定します。



C3 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F#2 ~ B2 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C#3 ~ F#3 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

トランスポーズ：移調する

移調：曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

音の高さの微調整

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CD の再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器や CD の再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

操作

音の高さを上げる(約1セント単位。100セント=半音)

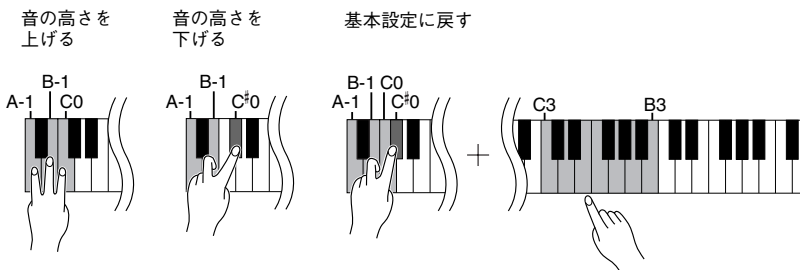
A-1、B-1、C0 鍵盤を同時に押したまま C3 ~ B3 鍵盤のどれかを押します。

音の高さを下げる(約1セント単位。100セント=半音)

A-1、B-1、C#0 鍵盤を同時に押したまま C3 ~ B3 鍵盤のどれかを押します。

基本設定に戻す

A-1、B-1、C0、C#0 鍵盤を同時に押したまま C3 ~ B3 鍵盤のどれかを押します。



設定範囲：-65 ~ +65 セント

基本設定(0 セント)では A3=440Hz になっています。440Hz 付近では、1Hz=約 4 セントです。たとえば A3=442Hz にしたい場合、8 回の操作で一番近い状態になります。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム（ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具）を備えています。ご使用ください。

操作

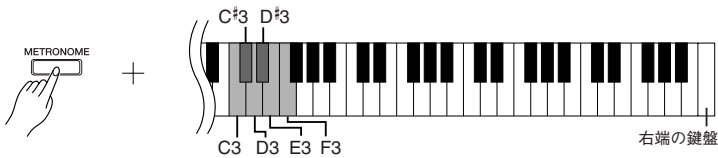
1. メトロノームを鳴らす

[METRONOME] を押します。

⇒ メトロノームが鳴り出します。

拍子の設定

[METRONOME] を押したまま C3 ~ F3 鍵盤のどれかを押します。



C3: 拍子なし、C#3: 2/4、D3: 3/4、D#3: 4/4、E3: 5/4、F3: 6/4

テンポの調節

メトロノーム、ピアノ 50 曲（プリセットソング）や自分で演奏したソングは、32 ~ 280（1 分間の拍数）の範囲で設定することができます。

以下の鍵盤にはそれぞれ数字が割り当てられています。

[METRONOME] を押したまま C4 ~ A4 鍵盤のどれかを押して、3 桁の数字を設定します。100 の位から順番に設定します。

たとえば、テンポを 95 に設定したい場合は、[METRONOME] を押したまま、C4 (0)、A4(9)、F4(5) の順番で鍵盤を押します。

テンポを 1 ずつ上げる

[METRONOME] を押したまま C#5 鍵盤を押します。

テンポを 1 ずつ下げる

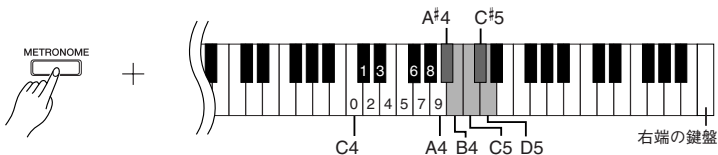
[METRONOME] を押したまま B4 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ上げる

[METRONOME] を押したまま D5 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ下げる

[METRONOME] を押したまま A#4 鍵盤を押します。



テンポを基本設定に戻す

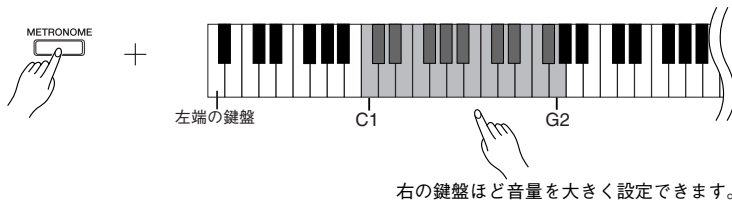
[METRONOME] を押したまま C5 鍵盤を押します。

基本設定：120

音量の調節

メトロノームの音量を設定します。

[METRONOME] ^{メトロノーム} を押したまま C1 ~ G2 鍵盤のどれかを押して音量を設定します。



2. メトロノームを止める

[METRONOME] ^{メトロノーム} を押します。

⇨ メトロノームが止まります。

■ タッチ感度を設定する

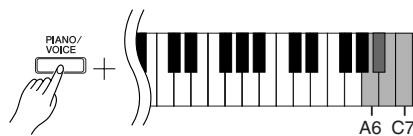
鍵盤を弾く強さに対する鳴る音の音量を設定します。

以下の4段階に設定できます。

- A6 弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱は変わりません
- A#6 弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱の差が少ない設定です
- B6 標準的なピアノタッチです (工場出荷時はこの設定になっています)
- C7 ピアニッシモからフォルテッシモまでダイナミックの広い演奏ができます。したがって、この設定では強く弾かないと大きな音ができません。

操作

[PIANO/VOICE] ^{ピアノ} ^{ボイス} を押しながら A6 ~ C7 の鍵盤を押してタッチ感度を設定します。



オルガンなど一部の音色ではタッチがかかりません。

演奏を録音（記録）する

この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を1曲録音できます。

この楽器で録音した曲を「ユーザーソング」と呼びます。

自分の演奏を録音 / 再生してみましょう。

「録音」と「記録」

カセットテープに録音するのは楽器内の録音機能を使って録音（記録）するのとでは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、楽器の場合は音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いたか、また音色はなにか、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生時は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。

この楽器の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

⚠ 注意

録音済みのパートを消さないために

すでにこの楽器に演奏が録音されているときは、**[PLAY]** のランプが点灯します。そのまま録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

操作

1. 録音する音色（とそのほかの設定）を選ぶ

[PIANO/VOICE] を押したまま C1 ~ F1 鍵盤のどれかを押して演奏したい音色を選びます。（P20）

必要に応じてそのほかの設定（リバープなど）も選んでください。

[MASTER VOLUME] は弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも **[MASTER VOLUME]** で音量を調節することができます。

2. 録音モードに入る

[REC] を押します。



[REC] のランプが点灯します。

録音を中止する場合は、もう一度 **[REC]** を押します。

3. 録音の開始

鍵盤を弾くと録音が始まります。

または **[PLAY]** を押しても録音が始まります。

4. 録音の終了

[REC] を押します。

デモ曲が鳴っているときは録音モードに入ることができません。

演奏記憶容量は？

この楽器に演奏を録音できる容量のことです。65KB（およそ 11,000 音符）となります。

録音済みのユーザーソングの設定を変えたい場合は・・・

録音モードに入り、演奏を始めずに設定を変えるだけで録音を終了させると、設定が変わります。

たとえばユーザーソングの音色を変えたい場合は、**[RECORD]** を押して録音モードに入り（手順2）、音色を設定します

（手順1）。設定が終わったら **鍵盤を弾かずに [REC]** を押して録音を終了します（手順4）。

⚠ 注意

楽器が内部のメモリーにデータを書き込んでいるとき（**[RECORD]** と **[PLAY]** のランプが点滅中）は電源を切らないでください。録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

録音したユーザーソングはコンピューターに保存することができます。（P34）
またコンピューターからソングデータを読み込んで再生することもできます。（P33）

録音した演奏を再生する

操作

1. 演奏の開始

プレイ
[PLAY] を押します。



2. 再生ストップ

ユーザーソングの再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。

再生途中にストップする場合は、プレイ [PLAY] を押します。

ソングを消去する

録音したソングを消去します。

操作

1. 録音モードに入る

レコード
[REC] を押します。



レコード
[REC] ボタンが点灯します。

消去をキャンセルする場合はもう一度 レコード [REC] を押します。

2. 消去

プレイ [PLAY] を押してそのまま レコード [REC] を押します。

データが消去されました。

ミディ MIDI 機器の接続

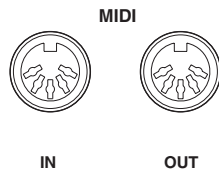
この楽器には ^{ミディ}MIDI 端子がついています。MIDI 機能を使って音楽の幅を広げることができます。

ミディ MIDI って何？

MIDI (ミディ) は、電子楽器間で演奏情報のやりとりができる世界共通の規格です。

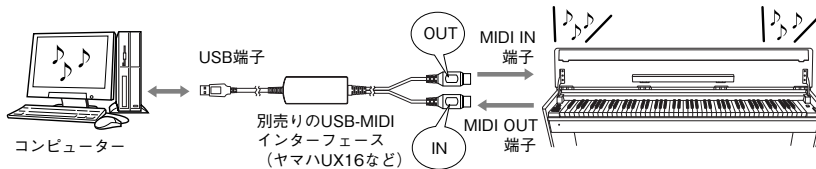
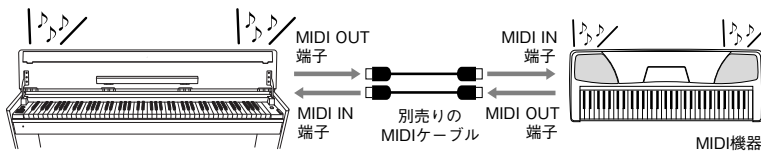
MIDI 端子のある電子楽器同士を ^{ミディ}MIDI ケーブルでつなげることで、違う楽器間でいろいろな演奏の情報や設定の情報などを送信 / 受信できます。

1つの楽器で演奏するよりも高度な演奏も可能になります。



ミディ MIDI でできること

MIDI 機能を使えば、他の ^{ミディ}MIDI 機器との間で演奏情報を送受信したり、コンピューターからソングデータを読み込んだり、コンピューターへユーザーソングデータを送信したりできます。



^{ミディ}MIDI で送受信できるデータの内容は ^{ミディ}MIDI 機器によって異なります。この楽器で送受信できる内容については web 上のデータリスト「MIDIインプリメンテーションチャート」を参照してください。(アクセス方法は P6 を参照してください。)

^{ミディ}MIDI 機器の接続には、専用の ^{ミディ}MIDI ケーブル (別売り) が必要です。楽器店などで買い求めください。

長いケーブルを使用すると、送受信のエラーが起こる場合があります。ケーブルは 15m 以内のものをご使用ください。

外部機器を接続する場合は、この楽器の電源を切った状態で接続してください。その後、「外部機器→この楽器」の順に電源を入れてください。

この楽器 から音色デモやピアノ / 50 曲のソングデータは送信できません。

ソングデータの送受信についての詳細は、「コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する」(P33) をご覧ください。

■ コンピューターと接続する

コンピューターをこの楽器の MIDI 端子につなげば、コンピューターとの間で MIDI データを送受信できるようになります。この場合コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

またミュージックソフトダウンローダーをコンピューターにインストールすると楽器とコンピューター間でソングデータを送受信することができます (P33)。

この楽器を音源として使う場合、この楽器にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

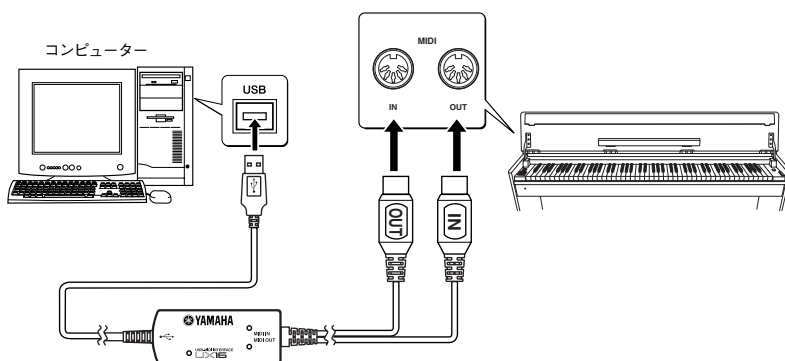
コンピューターと接続する場合は、最初に、この楽器とコンピューターの電源を切った状態でケーブル接続を行ない、その後コンピューター → 楽器の順番で、電源を入れてください。

コンピューターの USB 端子と楽器を接続する例

コンピューターの USB 端子と、楽器の MIDI 端子を別売の USB-MIDI インターフェース (YAMAHA UX16 など) を使用して接続します。

MIDI 機器をコンピューターで使用するには、コンピューターに USB-MIDI ドライバーを正しくインストールする必要があります。USB-MIDI ドライバーは、シーケンスソフトなどから USB ケーブルを通じて楽器に MIDI 信号を送信したり、逆に楽器からシーケンスソフトなどに MIDI 信号を送信するためのソフトウェアです。

詳しくは、USB インターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。



USB-MIDI インターフェースを使用してこの楽器とコンピューターを接続してみましょう

楽器の電源を切ってから、USB-MIDI インターフェースの MIDI OUT ケーブルを楽器の MIDI IN 端子に、USB-MIDI インターフェースの MIDI IN ケーブルを楽器の MIDI OUT 端子に接続します。

これでこの楽器とコンピューターが接続できました。

楽器の電源をオンにして、コンピューターとの間でソングデータなどを送受信してみましょう。YAMAHA UX16 を使った接続について詳しくは、UX16 に付属の取扱説明書をご参照ください。

コンピューターと楽器間で MIDI データを送受信するためには、コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

ミディ MIDI に関する設定をする

ミディ
MIDI に関する各種設定や操作を行ないます。

ミディ MIDI 送信/受信チャンネルの設定

ミディ
MIDI 楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDI チャンネル (1 ~ 16 チャンネル) を合わせておく必要があります。ここでこの楽器から MIDI データを送受信するときのチャンネルを設定します。

操作

MIDI 送信チャンネルの設定

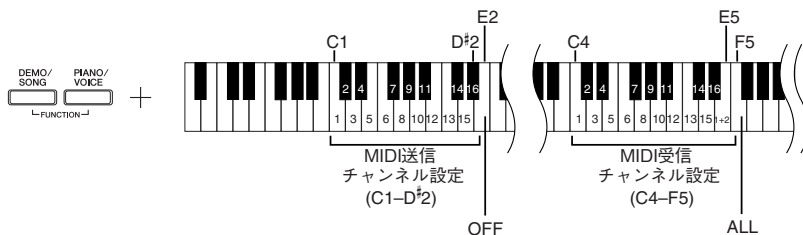
デモ ソング ピアノ ボイス
[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] を同時に押したまま C1 ~ E2 鍵盤のどれかを押します。

基本設定: 1 チャンネル

MIDI 受信チャンネルの設定

デモ ソング ピアノ ボイス
[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] を同時に押したまま C4 ~ F5 鍵盤のどれかを押します。

基本設定: ALL

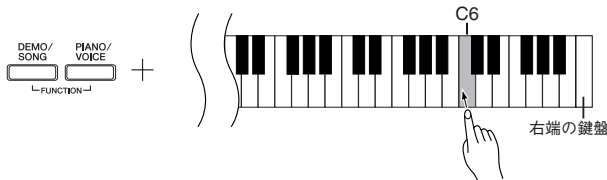


ローカルコントロールオン / オフ の設定

通常、この楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもこの楽器からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データは MIDI 送信されますので、この楽器の音を鳴らさずに MIDI 接続した外部の音源を鳴らしたいときに、ローカルコントロールをオフにします。

操作

デモ ソング ピアノ ボイス
[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] を同時に押したまま C6 鍵盤を押します。C6 鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが設定されます。



デュアルのときの第2音色は…

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。) ただし、上記設定チャンネルを OFF に設定した場合は送信されません。

ALL の場合は…

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部 MIDI 機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時に受信します。複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、この楽器で受信して再生させることができます。

[1 + 2] の場合は…

シーケンサーなどの外部 MIDI 機器から受信するデータのうち1、2チャンネルのデータだけを受信し、この楽器本体で再生することができます。

本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ (音色切り替え) などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲 / ピアノ 50 曲 (プリセットソング) の再生データは MIDI 送信されません。

⚠ 注意

ローカルをオフにすると楽器本体から音が出なくなります。

■ プログラムチェンジ送受信オン / オフの設定

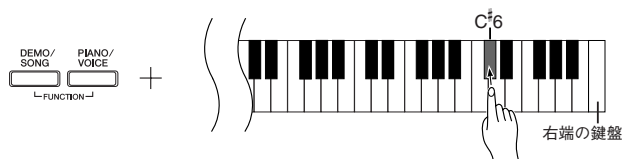
MIDI^{ミディ}で送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジ^{ミディ}と言います。たとえばこの楽器からプログラムチェンジを送信するとMIDI^{ミディ}接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(この楽器のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI^{ミディ}接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをこの楽器が受信すると、同時に受信しているMIDI^{ミディ}の演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送 / 受信ができたほうが便利な場合 (=MIDI^{ミディ}接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合 (=MIDI^{ミディ}接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

各音色のプログラムチェンジナンバーについてはweb上のデータリスト「MIDIデータフォーマット」を参照してください。(アクセス方法はP6を参照してください。)

■ 操作

[^{デモ}DEMO/^{ソング}SONG] と [^{ピアノ}PIANO/^{ボイス}VOICE] を同時に押したままC#6鍵盤を押します。C#6鍵盤を押すたびにプログラムチェンジ送受信オン/オフが設定されます。



■ コントロールチェンジ送受信オン / オフの設定

コントロールチェンジデータとは、MIDI^{ミディ}データのうち、演奏表現など(たとえば、ダンパーペダルの情報)に関するデータのことで、

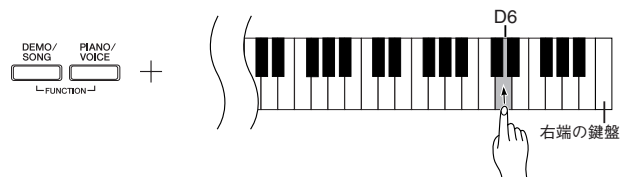
この楽器からコントロールチェンジを送信するとMIDI^{ミディ}接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(この楽器でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI^{ミディ}接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをこの楽器が受信すると、同時に受信しているMIDI^{ミディ}の演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

このコントロールチェンジの送 / 受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送 / 受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

この楽器で扱えるコントロールチェンジ情報についてはweb上のデータリスト「MIDIデータフォーマット」を参照してください。(アクセス方法はP6を参照してください。)

■ 操作

[^{デモ}DEMO/^{ソング}SONG] と [^{ピアノ}PIANO/^{ボイス}VOICE] を同時に押したままD6鍵盤を押します。D6鍵盤を押すたびにコントロールチェンジ送受信オン/オフが設定されます。



コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する

この楽器にはデモソングやピアノ 50 曲を内蔵していますが、そのほかにコンピューターからソングデータを読み込んで演奏することもできます。

この操作をするためには、下記 URL からミュージックソフトダウンローダーをダウンロードし、ご使用のコンピューターにインストールする必要があります。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

● **ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステム**
最新のコンピューターシステム対応状況については上記 URL でご確認ください。

・ OS	: Windows 2000/XP Home Edition/XP Professional/Vista ※ XP、Vista は 32bit 版のみ対応、64bit 版には非対応です。
・ CPU	: 500MHz 以上の Intel® Pentium® および Celeron® ファミリー
・ メモリー	: 256MB 以上
・ ハードディスク	: 128MB 以上の空き領域 (512MB 以上推奨)
・ ディスプレイ	: 800 × 600 HighColor(16-bit)
・ その他	: Microsoft® Internet Explorer®5.5 以上がインストールされていること

■ コンピューターからソングデータを楽器に読み込む

主に、ピアノだけのソングを読み込んだり、この楽器で録音してコンピューターに保存した曲をもう一度楽器に読み込むのに使用します。

SMF Format0 の MIDI データはこの楽器に読み込めますが、そのデータがこの楽器にない機能を使用している場合は、データどおりに再生できません。

コンピューターからソングデータを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

コンピューターから読み込んだソングを聞く方法は P19 を参照してください。

また、コンピューターから読み込んだユーザーソングを聞く方法は P28 を参照してください。

● **コンピューターから楽器に読み込める内容**

・ ソング	: 最大 10 ソング+ユーザーソング
・ データ量	: 合計で 352KB (キロバイト)
・ データフォーマット	: SMFFormat0 と 07YDP.BUP (ユーザーソング)

⚠ 注意

データ送信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししないでください。送信中のデータが保存されないだけでなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入切時にすべて消える可能性があります。

ミュージックソフトダウンローダーのソフトウェアは、無料でダウンロードできます。

SMF(スタンダード MIDIファイル)

代表的なシーケンスフォーマット (演奏データを記録する形式) の一つです。「MIDI ファイル」と呼ばれることもあります。ファイルの拡張子は .MID です。

SMFフォーマットでセーブされた曲 (ソング) データは、SMF 対応の音楽ソフトやシーケンサーで手軽に再生できます。

この楽器も SMF に対応しています。

ミュージックダウンローダーの動作中、本体の【REC】と【PLAY】のランプが点灯します。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

ミュージックダウンローダーで読み込めるファイル名は、英数字のファイル名に限ります。

楽器からソングデータをコンピューターに送信する

ミュージックソフトダウンローダーを使って、楽器内のユーザーソングをコンピューターに送信できます。

ユーザーファイルをコンピューターに送信する方法は、ミュージックソフトダウンローダーについてのヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

● 楽器からコンピューターへ送信できる内容

- ・ユーザーソング：07YDP.BUP
- ・コンピューターから読み込んだソング

ユーザーソングのファイル名「07YDP.BUP」を変更すると、そのソングはこの楽器で認識できなくなります。

バックアップデータと初期化（イニシャライズ）の方法

フラッシュメモリーへのデータバックアップ

下記の項目は楽器のフラッシュメモリーに保存されます。これらは電源を切っても記憶されています。

バックアップデータ
メトロノームの音量
メトロノームの拍子
タッチ感度
チューニング
自分で録音したソング（ユーザーソング）データ

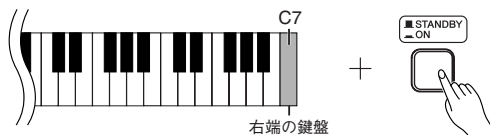
初期化（イニシャライズ）の方法

⚠ 注意

この操作をすると、コンピューターから読み込んだソング以外のデータが初期化（工場出荷時の状態になります）されます。

右端の鍵盤（C7）を押しながら電源を入れます。

⇒ バックアップデータがすべて初期化されます。



⚠ 注意

初期化実行中（**レコード**と**プレイ**のランプ点滅中）は電源を切らないでください。

この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、一旦電源を切り、初期化を行なってください。

困ったときは

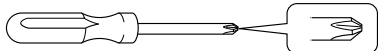
現象	考えられる原因	解決法
楽器の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用 (AC100V) コンセントに、確実に差し込んでください。(P11)
楽器から雑音が出る。	この楽器の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	この楽器の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。この楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	<small>マスター ボリューム</small> 【MASTER VOLUME】が下がっています。	<small>マスター ボリューム</small> 【MASTER VOLUME】を上げてください。(P14)
	ヘッドフォンを接続しています。(P14)	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P31)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	<small>トゥ ペダル</small> ペダルコードのプラグが【TO PEDAL】端子に差し込まれていません。	<small>トゥ ペダル</small> ペダルコードのプラグを【TO PEDAL】端子に確実に差し込んでください。(P37)
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

組み立て方

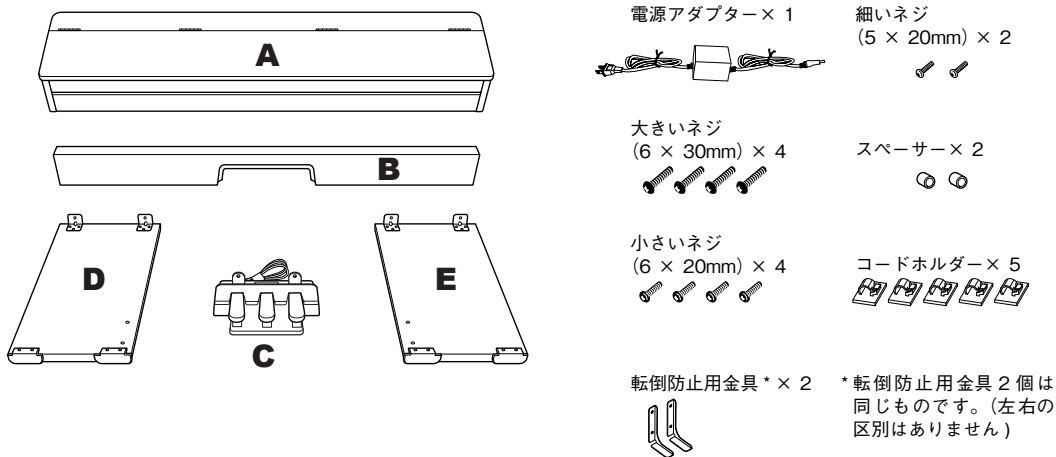
⚠ 注意

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ・ 付属のネジ以外のネジ、または指定されたサイズ以外のネジは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ・ 分解するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス (+) のドライバーを用意してください。

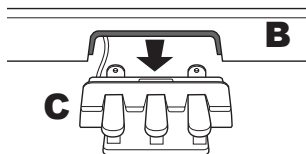


すべての部品を取り出し、部品がすべてそろっているかを確認してください。

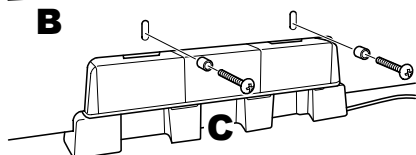


1 BをCに取り付ける

- 1-① B中央のくぼみの黒い縁を手前にして、Cにはめ込みます。



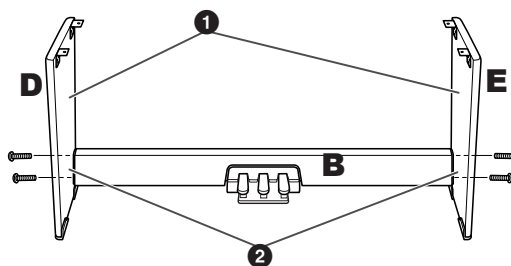
- 1-② 細いネジ (5 × 20mm) をスペーサーに通し、このネジでBの裏側からCを仮留めします。



*このイラストはBとCを裏側から見たイラストです。

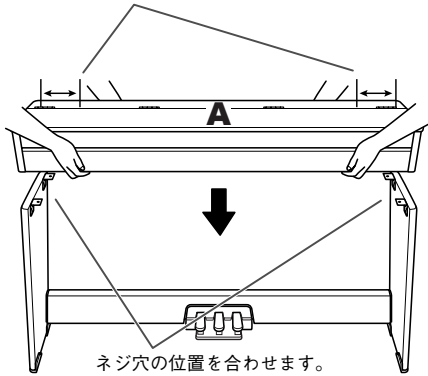
2 BをDとEに組み付ける

- 2-① Bの両端にDとEを合わせます。
- 2-② 大きいネジ (6 × 30mm) できつく締めます。



3 Aを乗せる

必ず A 底面の端から 10cm 以上内側を持って乗せます。

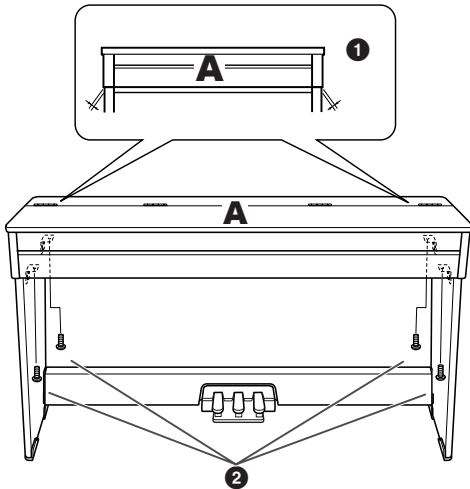


⚠ 注意

- ・ 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分注意してください。
- ・ 指定した位置以外を持たないでください。

4 Aを固定する

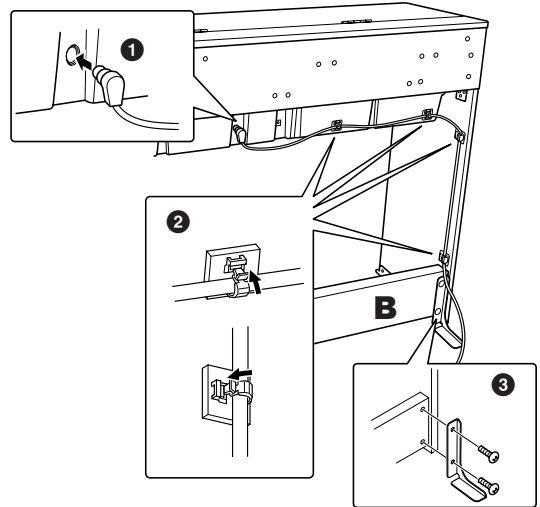
- 4-① 前面から見て A の張り出し部分が左右均等になるように調節します。
- 4-② 下面から小さいネジ (6 × 20mm) 4 本で固定します。



5 ペダルコードを接続する

- 5-① ペダルコードのひもをほどき、プラグを背面の [TO PEDAL] 端子に差し込みます。
- 5-② コードホルダーを図の位置に貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 5-③ B の両端に付いているネジを外し、そのネジを使用して転倒防止用金具を取り付けます。

転倒防止用金具 2 個は同じものです。(左右の区別はありません)

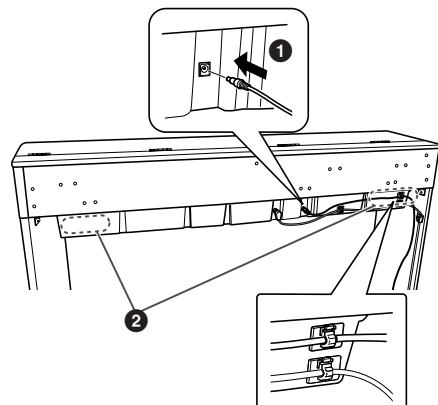


⚠ 注意

本体のすぐ後ろに壁がない場合は転倒防止用金具を必ず取り付けてください。

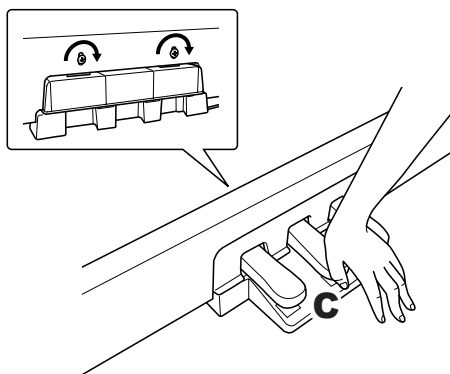
6 電源アダプターを接続する

- 6-① 電源アダプターのプラグを背面の [DC IN 12V] 端子に差し込みます。
- 6-② リアパネルの右側または左側 (コンセントに近い方) にコードホルダーを貼り付け、電源アダプターのコードを固定します。



7 Cを固定する

楽器を配置したい場所へ移動した後、Cが床にびったりつくようにペダルを押さえながら、手順1で仮留めたネジをきつく締め直します。



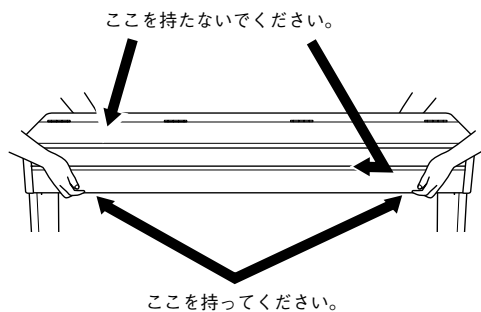
⚠ 注意

長期間楽器（ペダル）を使用しているとペダルでフローリングの床やたたみを傷つけることがあります。ペダルの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- ・ 部品が余っていませんか？
→ 組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
→ この楽器を移動してください。
- ・ この楽器がぐらぐらしませんか？
→ ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルコード、電源アダプターのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→ 確認してください。
- ・ 使用中に本体やペダルがきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。



⚠ 注意

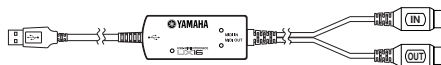
本体上部の板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-150



USB-MIDI インターフェース UX16



パソコンの USB 端子と楽器の MIDI 端子を簡単に接続できる USB-MIDI インターフェースです。

仕様

鍵盤	グレードハンマースタANDARD (GHS) 鍵盤 黒鍵マット仕上げ
鍵盤数	88 鍵 (A-1 ~ C7)
音源	AWM ステレオサンプリング
最大同時発音数	64
音色数	6
効果	リバーブ
ボリューム	マスターボリューム
コントロール	デュアル、メトロノーム、トランスポーズ
ペダル	ダンパー (ハーフペダル対応)、ソステヌート、ソフト
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲 50 曲
録音機能	1 曲録音可能 65KB (約 11,000 音符)
コンピューターからのソング データ読み込み	最大 10 ソング 最大容量合計で 352KB
付属端子	MIDI 端子 (IN/OUT)、PHONES (ヘッドフォン) 端子 × 2
メインアンプ	6W × 2
スピーカー	楕円 (12cm × 6cm) × 2
定格電源	100V, 50/60Hz
消費電力	28W
寸法 [間口×奥行×高さ] ()内はキーカバーを開けた場合	1390mm × 299mm × 783mm (1390mm × 299mm × 982mm) 転倒防止用金具を取り付けた場合の奥行きは 370mm になります。
装備	キーカバー、譜面立て
質量	36kg
付属品	取扱説明書 (本書)、ピアノで弾く名曲 50 選 (楽譜集)、クイックオペレーション ガイド、保証書、電源アダプター (PA-5D またはヤマハ推奨のアダプター)

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

・この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、「目次」(P7)をご覧ください

・[*]印はそのページの“欄外注”に説明があることを示しています。

数字・ABC 順

Numerics

2つの音色を重ねる	23
DEMO/SONG	16・17
MASTER VOLUME	14
METRONOME	16, 25
MIDI	29
MIDI インプリメンテーションチャート → データリスト	6
MIDI 送信 / 受信チャンネルの設定	31
MIDI データフォーマット → データリスト	6
Musicsoft Downloader (MSD) → ミュージックソフトダウンローダー	33
PHONES 端子	14
PIANO/VOICE	20
PLAY	28
REC	27
SELECT	17, 18
STANDBY/ON	11, 16
TO PEDAL	37
UX16	30

あ

アフターサービス → 保証とアフターサービス	41
イニシャライズ	34
音に残響を付ける	22
音の高さの微調整	24
お引越しのときは	9
音色	20
音色一覧	20
音量調節 (メトロノーム)	26

か

楽譜立て	12
キーカバー	12
キー (調) を変える	24
組み立て方	36
鍵盤蓋 → キーカバー	12
ご使用前の準備	11
困ったときは	35
コントロールチェンジ送受信オン / オフの設定	32
コンピューター	30
コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する	33

さ

再生 (コンピューターから読み込んだソング)	19
再生 (デモ曲)	17
再生 (ピアノ 50 曲)	18
再生 (ユーザーソング)	28
仕様	39
初期化	34
スタンド	36
選曲 (ピアノ 50 曲)	18
ソステヌートペダル → まん中のペダル	21
ソフトペダル → 左のペダル	21
ソングデータを消去する	28
ソングデータを送受信する	33

た

タッチ感度の設定	26
ダンパーペダル → 右のペダル	21
調律	9
データリスト	6
デモ演奏 → デモ曲	17
デモ曲	17
デモ曲一覧	17
デュアル → 2つの音色を重ねる	23
トランスポーズ → キー (調) を変える	24

な

音色	20
----	----

は

パーソナルコンピューター → コンピューター	30
パソコン → コンピューター	30
ピアノ 50 曲	18
左のペダル	21
拍子設定 (メトロノーム)	25
フォーンズ → ヘッドフォン	14
付属品	9
2つの音色を重ねる	23
蓋 → キーカバー	12
譜面立て	12
プリセットソング → ピアノ 50 曲	18
プログラムチェンジ送受信オン / オフの設定	32
ペダル	21
ヘッドフォン	14
別売品	39
ボイス (VOICE) → 音色	20
保証とアフターサービス	41
ボリューム調節 → 音量調節	14

ま

マスターボリューム → 音量調節	14
まん中のペダル	21
右のペダル	21
ミュージックソフトダウンローダー	33
メトロノーム	16, 25

や

ユーザーソング	27
---------	----

ら

リバーブ → 音に残響を付ける	22
ローカルコントロールオン / オフの設定	31
録音	27

メモ

付

録

メモ

付

録

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。


■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

◆修理のご依頼 / 修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理ご相談センター

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～19:00、
土曜日 9:00～17:30
(祝祭日および弊社休業日を除く)

ナビダイヤル (全国共通番号)  0570-012-808

※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
(IP電話、携帯電話などからおかけになる場合 TEL (053)460-4830)

FAX (053)463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(浜松サービスステーションは 8:45～17:30)
(祝祭日および弊社休業日を除く)

* お電話は、電気音響製品修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543
札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松サービスステーション

〒435-0016
浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋サービスセンター

〒454-0058
名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052
吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508
福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

電子ピアノに関するお問い合わせ窓口

クラビノーバ・ポータブル楽器 インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

●受付日 月曜日～土曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)

●受付時間 10:00～18:00 (土曜日は10:00～17:00)

<http://www.yamaha.co.jp/support/>

国内営業本部

ピアノ企画部 企画グループ

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488-6795

PA・DMI事業部

EKBマーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1 TEL (053) 460-3275

インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。
ご参照ください。

- ・電子ピアノ/キーボードのホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/>

- ・ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

- ・あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

- ・お客様サポート&サービス

<http://www.yamaha.co.jp/support/>

※名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。